

民主県政をつくる会 9月議会と県政報告会

ここを変えたい

広島県政&県議会

■清潔であたたかい民主県政をつくる会「9月議会・県政報告会」■

2023年11月2日(木) 18:30~20:00

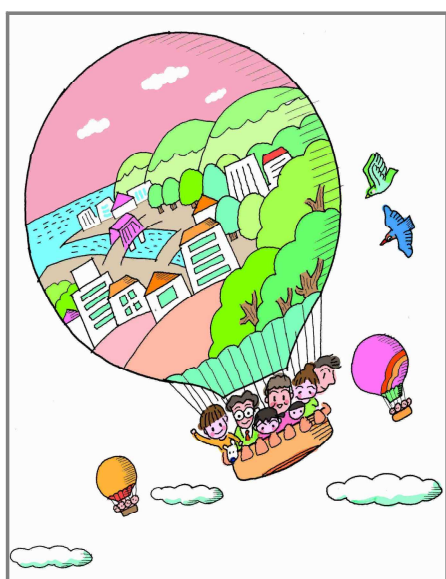
広島ロードビル / 3 F ホール

Zoom ミーティング

<https://onl.sc/QaZjGpg>

ミーティング ID: 894 0168 9231

パスコード: 714248



- | | | |
|---|----------------|-------|
| 1 | 広島県議会「建設委員会」報告 | 河村ひろ子 |
| 2 | 広島県議会「文教委員会」報告 | 藤井とし子 |
| 3 | 広島県議会改革の取り組み | 河村ひろ子 |
| 4 | 質疑と交流 | |

清潔であたたかい民主県政を作る会

連絡・問合せ先 広島市中区大手町4丁目2-27-403 TEL082-245-2501

○建設委員会の所管

- ・河川・道路・港湾・空港・公園など土木建築に関わる公共事業
- ・災害対策（急傾斜地や護岸整備など）・県営住宅・流域下水道事業、上下水道事業

（はじめに）

広島高速5号線二葉山トンネル工事は度重なる工事の中断で事業費が際限なく膨らんでいる。また、福山沼隈道路など大型道路整備は、脱車社会・脱炭素社会の実現とは真逆である。ゼネコン奉仕型、環境破壊型の公共事業は改めて見直さなければならない。災害対策として急がれる河川整備や土砂災害危険箇所への予算はあまり増えていない。県営住宅は、人口減少と老朽化を理由に5000戸減らす方針で、「用途廃止」で退居を求められる住宅が相次いでいる。また公共事業の民営化も進めている。「住まいは人権」「住民福祉の増進」を遂行すべき地方自治体の役目を十分に果たしているとは言えない。

1、広島高速5号線と二葉山トンネル

- ・2023年10月、30億円のさらなる増額（物価高騰と高速2号の連結工事の見直し）
- ・関連の広島市施工の道路212億円を含めると、広島高速5号線に1501億円、約2倍になった！
- ・建設工事紛争審査会の調停中の結果次第では、さらなる増額が求められる可能性もある。

2 福山沼隈道路について

- ・総額400億円。草戸～熊野区間の4.5㎞区間を走る道路。
- ・土地境界未確定のまま土地収用法の手続きに入った。（共有地の代表者1名のみで境界立会を行った。他の地権者から委任の確認もしていないばかりか、立ち合いの案内もしていなかった）

3 県営住宅

- ・2060年には5000戸数も減らす方針（県営住宅再編5箇年計画）
- ・貸家世帯数に対する公営住宅の割合→広島県9.4%（全国平均11.8%）
- ・世帯数に対する公営住宅の割合→広島県3.4%（全国平均4.0%）

4 道路の白線の引き直しについて

- ・県管理道路4100㎞に対する白線や区画線の引き直し予算は約2億円。
- ・2022年度から県は道路巡視時に取得した画像をAI解析し、区画線の剥離状況を定量的に把握しているところ。その後の取組の具体がないたため白線化の計画を立てるよう求めた。

5 河川の堆積土砂の撤去と樹木伐採について

- ・対象201㎞に対して42%の浚渫率（2022年度末）、県予算約16～18億円
- ・アダプト制度を利用した住民団体が浚渫や樹木伐採を行っているが、重労働と金銭的負担も大きい。

6 公共事業へのPFI導入

- ・流域下水道事業についてPFIや指定管理を含めて検討する（11月頃に検討状況をまとめる）

はじめに

県会議員になって半年、6月議会と9月議会の2回の定例議会を終えて、湯崎県政と議会がどうなっているのか、少しずつ掴めてきました。広島県は全国で14番目の財政力がありながら開発や経済に力を入れるけれども、県民の暮らしや子育て支援など最も県民が求めている社会保障や教育は国がやることと独自にやる気がない冷たい県政だということです。

この間、2回の日本共産党の議員団会議と10月には市町の議員団と一緒に89項目の要望書をまとめ、県に提出し一緒に要望の実現を迫りました。

わたしは、この間、9回の文教委員会と9月から11月にかけて8日間の決算特別委員会で主に取り組んできたことを紹介し、県政と県議会の課題が皆さんと共有できればと思います。

1 平川教育長の教育私物化問題について

平川教育長と親交のある「NPO 法人パンゲア」との「総額2600万円の事業契約の一部に、官製談合防止法違反があった」と外部の弁護士に要調査であきらかになった。ところが、教育長は特別職なので処分の対象にならず、報酬の3割、2か月を返上することで幕引きを図ろうとしている。幕引きにさせず、赤木かん子氏の図書館リニューアル事業の問題も追及。

2 県立高校統廃合問題 住民の運動と議会の論戦で募集停止ストップさせる。

1学年1学級規模の県立高校は、10年前に策定した計画の中に「2年連続で80人を切れば、統廃合の対象」という基準を来年度以降の新たな基準を検討する時期にあたり、地元の声を紹介し、数字を挙げての基準は作るべきでないと求めてきました。来年度から募集停止対象の3校は存続できることになりました。10月19日には新たな基準案「2年連続新入生が20人未満か全校生徒が60人未満」が示された。今後集中審議やパブリックコメントも募集後に確定されます。

3 学校給食ホーユー破産

学校給食は直営で

学校給食が一般競争入札でいいのか

4、中学校の35人学級実現にあと10億円！ 教員不足と教員の長時間労働の改善を

不登校生徒数やいじめ件数、暴力件数も過去最高になっている中、先生の多忙化の解消も遅々として進まず、多忙化に拍車をかけているのが教員の未配置問題です。未配置をなくし、教員の多忙化の解消と子どもに向き合える中学校の35人学級を県独自に取り組むよう求めました。

決算特別委員会から

日本共産党県議団 藤井敏子

5、信号機は要望してもほとんど設置されない。

420件の設置要望があるのに、1年間に県内で8基のみ。

6、有機農業の推進と学校給食に活用と家族小規模農業の支援を！

神石高原町ではオーガニックビレッジ宣言 県は大規模、集約化して儲かる農業を推進

7、鳥獣被害対策

県が新たな体制づくり 一般財団を作って市町の支援を始める。

広島県議会は定数64人のうち日本共産党は1議席から2議席に倍増した。新人県議は14人、女性県議は4人から8人へと増えた。議会内では新旧交代が一定程度進んだが、議長をトップに伝統と権威を重んじる広島県議会。ネクタイ姿という伝統を重んじていた為、議会内のクールビズ（ノーネクタイ・ノージャケット）の取組は今年の9月からやっと始まった。最大会派の自民議連は34人と過半数を占めており、依然としてオール与党の県議会。

交渉会派の要件は県議5人以上になっているため、日本共産党・広志会・一人会派4人は会派代表者会議や議会運営委員会に出席することが認められていない。少数会派の意見が議会運営に反映されない仕組みは問題である。

本会議の一般質問は、第一質問だけで再質問をする県議はほとんどいない事に驚いた。積極的な論戦の場になっていない。

日本共産党県議団は唯一の野党として、政治とカネの問題などの議会改革と、県民要求を実現するための大きな役割がある。県民と一緒に要求運動を高めながら、命とくらしを守る県政へと全力を尽くす決意です。

○議長・副議長選挙に立候補（5月臨時議会）

事前に「立候補所信表明」の文章を持って各会派へまわった。

○「議会改革を求める要望書」を提出

中本県議（議長）と森川県議（議会運営委員会の委員長）に手渡す
テレビにも報道されました！

- ①議員の海外視察の再開中止
- ②各会派代表者会議や議会運営委員会に少数会派を加える（県議会は5人以上が交渉会派）
- ③議会に出席した場合の日当3000円（公務諸費）の廃止
- ④14金製4万4千円の議員バッジの廃止

○9月議会には意見書の提案をした

- ・「インボイス制度の実施延期を求める意見書」「現行の健康保険証の継続を求める意見書」
→議会運営委員会に出席できないため、議運の委員長に意見書を渡した。しかし、議会運営委員会では全会派の「賛同」が得られなかった事を理由に否決された。

○9月本会議の最終日、本会議場での討論が実現！

- ・病院統廃合を含む新病院建設の議案や広島高速5号線30億円増額の議案について「反対」の理由を述べました。